

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏名	S.A.	学部・学科	国際教養
学年	2	派遣国	ポーランド
派遣大学	ヤゲヴォー大学		
期間	2023年 10月 1日～ 2023年 6月 30日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ( )					
部屋	個室 / 2人部屋 / 3人部屋 / その他 ( )					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	◎
	キッチン	◎	冷暖房	◎	冷蔵庫	◎
滞在費	約 ( 20000~25000 ) 円 *1ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(トラム) で、約 (20) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先2の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1ヶ月の生活費

項目	金額	内訳
食費	25000 円	自炊のための材料、菓子、茶等
学用品購入費	1000~5000 円	月によって変動、PC でメモを取ったため文房具などは買わずに済み、出費は授業の必須テキストに抑えられた
交通費	約 3000 円	トラムのチケット (学割)
交際費	(変動) 円	旅行のチケット代金、お土産の購入費用等
その他	(変動) 円	
<b>合計</b>	<b>40000 円</b>	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

ポーランド人の友人によれば、時勢的に移民が増えている影響で治安は以前より悪化しているとのことだったが、そのような雰囲気はあまり感じられない。たまにデモ（過激な題目のものもある）などが街中で行われることもあるが、多くの場合大使館から事前の注意喚起が届くため、自発的に近づきでもしない限りは全体的に安心できる治安の国だったように思う。

### 3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他 ( )		
加入期間	(10) ヶ月間	保険料	(103930) 円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称			
加入期間	( ) ヶ月間	保険料	( ) 円

### 4. 滞在都市についての情報

#### 滞在都市／町（クラクフ）

人口と都市規模： クラクフはポーランドで 2 番目に大きな都市であり、人口は約 77 万人。都市圏を含めると約 140 万人が居住しており、ポーランドの文化的、経済的中心地の一つとして発展している。

宗教と信仰： 伝統的にカトリックの信仰が非常に強い都市。カトリック教会は、市民生活において重要な役割を果たしており、特にカトリックの祭りや儀式が市民の生活に深く根付いている。市内には多くの歴史的な教会や修道院があり、特にヴァヴェル大聖堂はポーランドのカトリック信仰の象徴的な場所として有名。また、かつてはユダヤ人コミュニティも非常に活発で、カジミェシュ地区には今も多くのシナゴグが残っている。

ホロコーストの歴史と記憶： 第二次世界大戦中、クラクフはナチス・ドイツの占領下に置かれ、その結果、ユダヤ人コミュニティが大きな打撃を受けた。現在、クラクフにはかつてのゲッターやオスカー・シンドラーの工場など、ホロコーストの歴史を物語る場所が多く残されている。これらの場所は、訪れる人々にとって過去を振り返り、犠牲者を追悼する重要な場所となっている。

## 【学業編】

### 1. 大学情報

大学	ヤゲヴォー大学	所在地	クラクフ
最寄空港	バリツェ空港	空港からの距離	約 11 km
空港⇄大学	(バス) *移動手段		
学生数	約 40000 人	留学生数	約 3500 人
学部	法学 医学 薬学 健康科学 哲学 物理・天文・応用情報科学 歴史学 文献学 ポーランド語・ポーランド文学 数学・情報科学 化学 生物学・地球科学 コミュニケーション科学 政治学 生化学・生物物理学・バイオテクノロジー  *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	哲学  *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (10)月～(1)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前					<b>Contemporary Social Thought</b>
午後		<b>Rhetorical Strategies in Advertising</b>		<b>History of Polish Culture</b>	

② (2)月～(6)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前			<b>The Holocaust and Its Cultural Meaning</b>	<b>History and Sociology of Food and Drink in Poland</b>	
午後		<b>Nationalism and Identity</b>			

### 3. 履修内容

科目	Contemporary Social Thought		
履修期間	10-1 月	単位数	3 単位相当
授業内容／形態	21 世紀の社会的、文化的、政治的变化に関する社会理論の現在の傾向と方向性を提示し、議論し、批判することを目的とした講義。個人主義、消費主義、人新世、グローバリゼーション、ユートピア、ノスタルジア、テクノロジーの概念について探求する。 対面でのディスカッションを交えた形態		
成績	-		
YCU 振替予定	科目	-	
	単位数	-	
	担当教員	-	

科目	Rhetorical Strategies in Advertising		
履修期間	10-1 月	単位数	3 単位相当
授業内容／形態	学生に修辞学の理論と実践を紹介し、コミュニケーションのさまざまな側面（マスメディア、広告、日常コミュニケーション）に着目させることを目的とした講義。 対面でのディスカッションを交えた形態		
成績	可		
YCU 振替予定	科目	コミュニケーション論	
	単位数	2	
	担当教員	佐藤 響子	

科目	History of Polish Culture		
履修期間	10-1 月	単位数	3 単位相当
授業内容／形態	9 世紀あたりから現代まで遡上してポーランドの歴史を学ぶことを目的とした講義。 対面でのディスカッションを交えた形態		
成績	-		
YCU 振替予定	科目	-	
	単位数	-	
	担当教員	-	

科目	Nationalism and Identity		
履修期間	2-6月	単位数	3単位相当
授業内容／形態	現代社会におけるナショナリズムとエスニシティの複雑な関係を探求し、これらの概念が社会構造に与える影響を深く理解することを目指す講義。 対面でのディスカッションを交えた形態		
成績	可		
YCU 振替予定	科目	エスニシティ文化論	
	単位数	2	
	担当教員	坪谷 美欧子	

科目	The Holocaust and Its Cultural Meaning		
履修期間	2-6月	単位数	3単位相当
授業内容／形態	ホロコーストを二十世紀における西洋の決定的な出来事と位置付け、その文化的影響を探求する講義。ホロコーストを単なる歴史的・政治的な出来事としてではなく、現代ヨーロッパの社会的文脈の中で理解することを目指す。ホロコーストの発生過程、政治的指導者の行動、一般市民の反応、そして加害者、被害者、傍観者の役割を詳細に分析する。 対面でのディスカッションを交えた形態		
成績	可		
YCU 振替予定	科目	欧米社会史	
	単位数	2	
	担当教員	山根 徹也	

科目	History and Sociology of Food and Drink in Poland		
履修期間	2-6月	単位数	3単位相当
授業内容／形態	学部留学生に学術的な観点からポーランドの飲食を紹介することであることを目的とした講義。講義や教室でのディスカッションを含む伝統的な教授法に加え、学生には地元の料理本（Zasmakuj w tradycji）に記載されているレシピを選んでもらい、それを自分で翻訳して調理し、その料理、社会的背景、歴史、暦の中での位置づけなどをクラスの他のメンバーに説明する。また、地元の食に関するイベントへの小旅行も行う。 対面でのディスカッションと課外授業を交えた形態		
成績	-		

YCU 振替予定	科目	-
	単位数	-
	担当教員	-

<総括>

(1) 全体的な感想 \*留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800字以上)

現代社会に生きていれば、特定の国の名前を耳にすることで、ある程度のぼんやりとしたイメージが頭に浮かぶことは少なくありません。例えば、イタリアであれば「料理が美味しい」、フランスであれば「おしゃれそう」といった印象を持つことが一般的でしょう。しかし、こうしたイメージにも例外は存在します。私が留学した先であるポーランドは、まさにその一例と言え、実際留学以前にポーランドについて話題にするたびに、まず最初に返ってくるのは「どうしてポーランド？」や「どんな国？」といった質問でした。そのたびに私は、その質問に対する答えに悩まされました。というのも、そもそも私がポーランドを留学先として選んだ最大の理由は、「行ったことのない、特に馴染みのない国だから」という非常にシンプルなものでした。つまり、留学を決めた時点で、私はポーランドについて特別に詳しいわけではありませんでした。

しかし、一年間もその国で生活を送れば、自然とその国のことが見えてくるもので、今であれば、留学前には答えることができなかった多くの質問にも、ある程度の自信を持って答えられる気がします。たとえば、学術的な視点から見ると、私が留学したヤゲヴォー大学では、ホロコーストやユダヤ文化といった、自国の歴史に深く根ざしたトピックに関する講義が多く提供されていました。また、留学生向けにポーランドの文化、例えば食文化や芸術史に関する非常に局地的な知見を紹介する講義もありました。これらの講義を通じて得た知識と、日常生活での経験を照らし合わせることで、徐々にポーランドという国の雰囲気を感じることができたのです。

とはいえ、ポーランドの歴史やエスニシティに関する学びを深めるにつれ、一義的には語れないこの国の複雑さも感じるようになりました。このため、今後も他の視点からの学びを続け、さらに深い理解を得られるよう努めたいと考えています。

(2) 今後の展望 \*この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400字以上)

今後の目標として、まず英語力の維持と、就職活動に役立つ実績の取得を最優先で行う。具体的には、TOEICのスコアを向上させ、企業に対してアピールできる英語力を示すことで、グローバルなビジネス環境で活躍できる人材となることを目指したい。

次に、自分の専門分野を異なる視点から観察し、新たな知見を得ることが重要だと留学の経験を通じて感じさせられた。それを行うことによって、既存の知識を深めるとともに、新しいアプローチや方法論を取り入れることが可能となり、自分が選べる選択肢を増やすことにもつながる。異文化交流や他分野との交流を通じて、幅広い視野を持つ専門家として成長していければと思っている。

また、別種の課題にはなるがコミュニケーション能力の改善も不可欠だと痛感した。特に国際的なチームでの協働や、多様なバックグラウンドを持つ人々との円滑なコミュニケーションは、仕事の質を向上させる上で必須とも言える能力だ。そのため、帰国後はインターシップへの参加やキャリア相談を通じて、実践的なスキルを磨きながら、自分の将来像をより明確にしていく予定だ。これらの活動を通じて、専門性と実践力を兼ね備えた社会人としての第一歩を踏み出したいと考えている。

(3) 後輩へのアドバイス \*留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400字以上)

・英語で教える講義、特にポーランドの文化を学ぶ系列の授業は傾向として講義内でのディスカッションが成績につながる場合が多いため取る場合は英語のスピーキングを鍛えた方がいい。

・トラムは日常的に使うことになるだろうため"Jakdojade"などのオンラインチケット販売アプリを使うと便利。私は小銭でしかチケットを買えない古い機体が設置されているトラムに乗った時にクレジットカードしか持っておらず、大変な思いをしたことがある。

・履修登録のシステムなどに問題が発生する可能性があるため、その時は自分が配属された学科の先生にメールを送って自分の取りたい授業について相談した方がいい。講義の枠はそこまで多くないため、遅くなると好きな授業が取れなくなってしまう。

・大学の近くの中央広場などではたびたび政治的なデモなどが発生するため、事前に大使館から届くであろうメールマガジンなどでその日のデモの有無などを確認した方がいい。